

おいしいジャガイモたくさんとれたよ



みんなで収穫



「アトムタイム」と名付けられた芳賀北小学校の「総合的な学習の時間」。漫画家故手塚治虫氏が描いた「鉄腕アトム」の誕生日と芳賀北小学校の開校記念日が偶然にも同じことから名付けられました。子どもたちにアトムのようになたくましく、元気に学んでほしいという気持ちからでしょう。

今回のアトムタイム、3年生のジャガイモ作りには、循環システム研究会（手塚孝夫会長）の皆さん協力しています。それぞれが生産者といふこともあり、子どもたちにいろいろな話を聞かせていました。そして自分たちの給食の残りで作った有機肥料を使い、おいしく、安全な作物を作ることができました。

身近な農作物に関心を持ち、子どもたちが自ら作物を栽培することで、収穫の喜びや関係した人への感謝の気持ちを育むことができます。それらが生産者といふこともあり、子どもたちにいろいろな話を聞かせていました。そして自分たちの給食の残りで作った有機肥料を使い、おいしく、安全な作物を作ることができました。

※総合的な学習の時間：平成14年度から実施。今までのような画的授業ではなく、子どもたちが自ら学び、自ら考える力や学び方やもの考え方などを身に付けることで、よりよく問題を解決する資質や能力などを育むことをねらった授業時間。



農家を見学しました

関心を持った農作物を栽培している農家の皆さんを訪問。イチゴ、ナシ、ジャガイモ、ナス、トウモロコシ、ブルーベリーなどの生産農家を見学。おいしい作物を作る工夫や苦労、農家の人の知恵を聞いて感心する子どもたち。

アトムタイム

【4月】ジャガイモの種まき
栽培方法を教えてもらい、畑を見学。品種は、給食にも使われている「トウヤ」。肥料は給食の残りかすなどで作った有機肥料を使う。

【5月】農家の見学
グループ別でテーマを考え、関心を持った作物の栽培農家を見学に行く。（上段写真）

【6月】有機肥料の見学
自分たちの給食の残りが有機肥料に変わるまでを見学。3か月後に有機肥料になり、自分たちの給食の残りが有機肥料に変わるまでを見学。

【7月】ジャガイモの収穫
どうして芽かきするのか、栽培の工夫を知る。

いくつのジャガイモが実り、収穫の喜びをみんなで味わう。収穫されたジャガイモを、東小と南小の給食用食材に提供。北小ではカレーの具に使われる。

ジャガイモの芽かき

自分たちが蒔いた種芋から、3か月後に有機肥料になり、機肥料に変わることを知る。

ジャガイモの収穫

自分たちが蒔いた種芋から、3か月後に有機肥料になり、機肥料に変わることを知る。

【9月】ポテトパーティー

収穫したジャガイモを使い、保護者とジャガバターを調理。バターも子どもたちの手作りで、お世話になった方々を招待し、感謝の気持ちを伝える。

ジャガイモを作つて

水沼華那子
「男爵」の花は紫だけど「トウヤ」は白でした。給食の残り物が有機肥料になることがわかり、びっくりしました。

小菅 春香
ポテトパーティーにお母さんが手伝いに来てくださいました。発表もみてもうえてうれしかったです。

斎藤 大輝
ジャガイモのねっこががれてきたら、「もうほつてもいいよ」というサインだとしました。いろいろなことがわからました。

循環システム研究会 「夢大賞」受賞



受賞された循環システム研究会の手塚孝夫会長と吉永能成さん

芳賀北小学校のアトムタイムにも協力している循環システム研究会が10月18日、県総合教育センターで行われた「とちぎの食を考える集い」で知事から表彰を受けました。

平成12年の設立以来「地産地消による『食の循環システム』の確立」を目指し行ってきた活動が評価され「とちぎ地産地消夢大賞」に選ばれました。28軒の農家が減農薬で栽培した野菜を学校給食に提供し、たい肥は給食の残りで作った有機肥料を使用。顔の見える農産物の提供で食育にも貢献しています。

同研究会は「食」をとおして学校や家庭、そして地域とのつながりを大切にし、消費者、行政と共に地産地消・食育を推進することを目標にしています。

芳賀北小学校3年生が総合的な学習の時間で実施した「農作物のひみつ発見～食と環境～」。芳賀町ならではの環境を活かした取り組みで、子どもたちの熱心な表情が印象的でした。この授業の様子を紹介します。